

県市が連携した北九州空港の取組と今後の方向性について

【これまでの取組】

- ・平成28年度～平成30年度「北九州空港将来ビジョン推進強化期間」
- ・令和元年度～令和3年度「北九州空港のネットワーク充実強化期間」

【旅客便の現状】

旅客便については、令和元年度末からの新型コロナウイルスの世界的な感染により、国際及び国内の航空路線は大きなダメージを受けており、現状においても国際線の路線再開の見通しが立たず、国内の主要路線である羽田線においても減便が続いている状況。

【貨物便の現状】

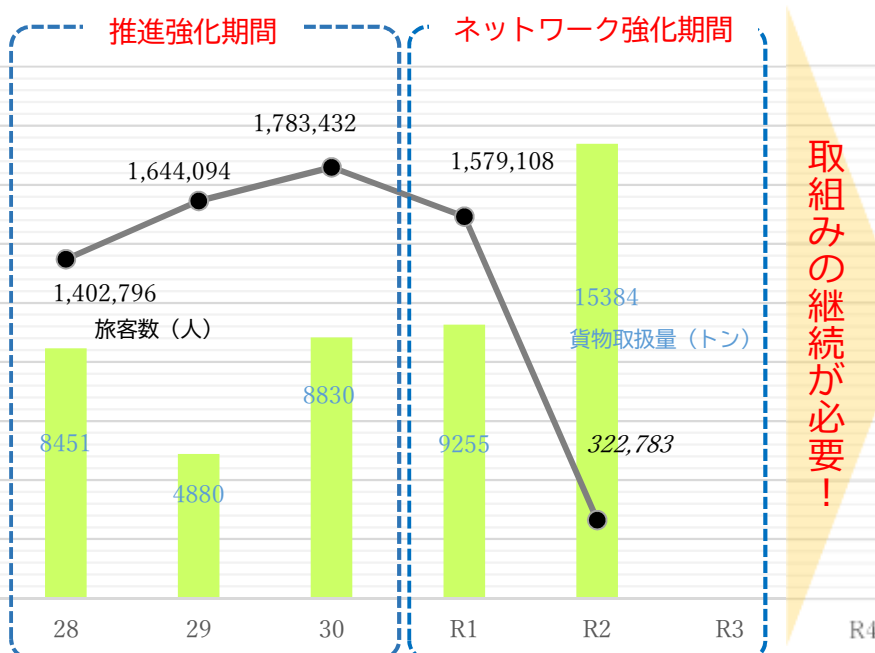
貨物便については、大型貨物専用便の新規就航、世界的ハブ空港との往復による輸出入貨物の増大など、貨物拠点化が大きく進展した。

航空貨物の急速な増大により、北九州空港の貨物上屋の増設や通関体制の確立など、新たな課題の解決に取り組むこととなった。

【今後の方向性】

「北九州空港のネットワーク充実強化期間」は令和3年度に終了するため、貨物拠点化推進と併せて、アフターコロナを見据えた路線誘致や路線定着を目指すため、「強化期間継続」の必要がある。

〈旅客・貨物取扱量の推移〉



今後の取組

〈旅客〉

令和4年度からの3か年をコロナ禍からのV字回復を図る「強化期間」として位置付け、復便に特化した支援を行うなど、県市協働で旅客路線誘致や路線定着に向かい取組む必要がある。

コロナ禍からのV字回復

〈貨物〉

令和4年度からの3か年も引き続き貨物取扱「強化期間」として位置付け、貨物定期路線の定着と拡充を進めるため、輸出貨物の集貨促進に加え、輸入貨物の集貨に取組む必要がある

定期貨物路線の定着と拡充